

デザイン指針 冊子に

県南大域振興局土木部一関土木センターは、2010年度に平泉町の中尊寺通り(県道平泉停車場中尊寺線)で沿道住民らとの協議で決まった電線地中化に係る全体意匠(デザイン)の概要などを冊子にまとめた。A4判カラー、26ページで約50部作製。イメージパース(完成後の

平泉・中尊寺通り電線地中化

創造図)を用い、同通りの指針となるデザインなどが分かりやすく示されている。同センターは沿線住民にも簡略版を配布して周知を図るほか、指針に基づいて工事を進めていく考えだ。

一関土木センター

同センターは、電柱の代わりとなる地上機を設置する電線地中化ばかりでなく、「平安の遺構を紡ぎ、時と人がゆるりと流れる日常へ」をコンセプトに、同通りを駅前中尊寺通り商店街、無量光院跡、高館・中尊寺前の3地区に分けて設計を実施。

一方で、地域住民や関係機関の意見、要望を設計に反映させるために昨年11月から同通り道路デザイン検討会作業部会を4回、同検討会を2回、地元説明会を含む同住民協働部会を8回それぞれ開催し、同通りの在り方を模索してきた。

冊子は、その協議の結果、住民と共に練り上げた道路デザインの指針などをまとめたもので▽業務概要▽デザインコンセプト▽ゾーン別道路デザイン▽施設デザイン▽お休み処、小公園デザイン

同センターは、電柱から成る。このうち、ゾーン別道路デザインでは、3地区ごとにイメージパースを示し、完成後の様子がリアルに実感できる。また、通りの平面図、断面図も併せて掲載。自動車が速度を落とし、歩行者との共存を図るシステムを説明している。

施設デザインでは、舗装や照明、内照式車止め、旗台などについて実物サンプル、点灯イメージ、模型、縮図で分かりやすくまとめた。

同センターは冊子を関係機関や各部会委員などに配布。6~7月に住民説明会を開催する予定で、地域住民にはさらに分かりやすい簡略版を作製し活用してもらおう考えた。

同センター道路河川環境課の本間崇志主任は「地域住民と協働で作った指針を自ら見える形にしよう」と冊子にした。東日本大震災の影響がないわけではないが、当初の計画に沿って着実に事業を進めていきたい」と話している。

一関土木センターが沿線住民らと共に協議し道路デザインの指針をまとめた中尊寺通りの冊子



まちなみ整備検討会 優良景観実現に評価 県から感謝状、町長へ報告



景観団体の感謝状を受けて喜ぶ(左から)佐藤委員、菅原町長、小野寺委員長、遠藤委員、千葉委員

県の2010年度景観優良団体感謝状を受けた平泉町の中尊寺通りまちなみ整備検討会の小野寺郁夫委員長らは24日、町役場を訪れ、菅原正義町長に受賞を報告した。長年にわたり県道平泉停車場中尊寺線(通称中尊寺通り)の景観形成に努め、電線地中化の実現につなげたことなどが評価された。菅原町長は「皆さんの熱意に敬意を表したい」とたたえた。

小野寺委員長と遠藤セツ子、佐藤長伸、千葉哲也の各委員が訪問。小野寺委員長が「平泉の文化遺産」が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界遺産登録が期待される時期の受賞は、今後の活動に弾みが付く。町の支援にも感謝したい」と報告し、県からの感謝状を示した。

菅原町長は「長年の地道な努力のたまもの。皆さんの熱意が電線地中化の道を開いたと思う。町としても良い中尊寺通りになるよう協力していく」と語った。

小野寺委員長は「今回の感謝状は地域のみなさんの尽力が大きく、その代表として検討会が受けたもの。本当の評価は電線地中化などの整備後に問われる。組織の改組も視野に入れながら平泉のメーンストリートになるよう全力を挙げたい」と意欲を示した。

同検討会は、05年に立ち上げた中尊寺通りプロジェクトチームが中核。その後、沿線住民代表や関係機関の担当者、研究者らを加え07年に発足。同通りの街路整備方針案の立案や検討、合意形成

活動などに努めてきた。景観優良団体は、県が10年度に地域の良好な景観の形成を図るため、地域特性を活かした景観形成に率先的に取り組む個人や団体を広く紹介しよう」と創設。県内で13団体、一関・両磐地方では同検討会と一関市の本寺地区地域づくり推進協議会が選ばれている。